◎注意事項をよくお読み下さい



そな経済フラッシュ **(日銀金融政策決定会合**

2019/4/25

りそなホールディングス 市場企画部

○概況

- ◆ 政策金利のフォワードガイダンスを「2020年春頃まで」と明確化
- ◆ 政策金利▲0.1%、10年金利目標水準0%程度、国債買入れペース年 間80兆円めどは変更なし
- ◆ 強力な金融緩和の継続に資する諸措置を発表 (適格担保拡充等)
- ◆ 2021年度の物価見通しは+1.6%で2%には到達しないとの見方を示した
- ▶ 日本銀行は4月25日の金融政策決定会合にて、「長短金利操作付 き量的・質的金融緩和」の継続を決定した。

【主な政策】

- □ 政策金利のフォワードガイダンス:海外経済動向や消費税率引き上げの 影響を含めた経済・物価の不確実性を踏まえ、当分の間、少なくとも 2020年春頃まで、現在のきわめて低い長短金利の水準を維持する →消費税率引き上げの影響に加え、「海外経済動向 は見極めの対象 とし、時期も「少なくとも2020年春頃」と明確化させた。
- □ 長短金利操作(イールドカーブ・コントロール): 日銀当座預金残高の うち、政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用。また、10年国債 利回りがゼロ%程度で推移するよう、長期国債買入れを行う。買入れ額 は保有残高の増加額年間80兆円をめどとしつつ弾力的に実施。金利は、 経済・物価情勢に応じて上下にある程度変動しうるものとした。
- □ ETF・J-REITの買入れは、それぞれ年間約6兆円・約900億円ペース で保有残高拡大。市場の状況に応じて、買入れ額は上下に変動し得る。
- □ CP等・計債等はそれぞれ約2.2兆円・約3.2兆円の残高を維持。
- □ 強力な金融緩和の継続に資する諸措置(新規)
 - 1. 日本銀行適格担保の拡充 外部格付け要件の緩和(現在A格→BBB格相当以上、金融機 関の自己査定正常先)等
 - →国債の品不足への対応
 - 2. 成長基盤強化支援資金供給の利便性向上・利用促進
 - 3. 国債補完供給 (SLF)の要件緩和 →国債市場の流動性向上
 - 4. ETF貸付制度の導入
 - →株式市場の流動性向上

- ▶ 政策変更はなし。主要国中銀が金融緩和姿勢を強める中、「強力な金融 緩和を粘り強く続けていく政策運営方針をより明確に示すとして①フォワー ドガイダンスの強化②適格担保の拡充③国債やETFの流動性向上策を 図った。
- ▶ ①のフォワードガイダンスの強化については、10月消費増税の効果を見極め てということで早くても10-12月GDPが公表される2020年2月以降との見 方が有力であったことから違和感のない措置。
- ➤ ②の適格担保の拡充は適格担保の拡充はBBB格相当以上の流動性向 トに一定程度の効果はあろう。また③の措置も一定程度国債やETFの流 動性向上に効果はあろう。
- ▶ 展望レポートで示された政策委員の見通しは、報道されていた通り、① 2018-2020年度の成長率見通しを小幅修正②新たに公表された2021 年度の消費者物価見通しは、目標である2%の物価目標に到達しないとの 見方となった。

【2018-2020年度の政策委員の大勢見通し(3月時点)】

(対前年度比、%)		実質GDP			消費者物価指数 (除〈生鮮食品)	消費税率引き上げ・ 教育無償化政策の 影響を除くケース
2018年度		+0.6%	~	+0.6%	+0.8%	
		<	+0.6%	>		
	1月時点の見通し	+0.9%	~	+1.0%	+0.8%	- +0.9%
		<	+0.9%	>	< +0.8% >	
0010左曲		+0.7%	~	+0.9%	+0.9%~+1.2%	+0.7%~+1.0%
20	19年度	<	+0.8%	>	<+1.1%>	<+0.9%>
	1月時点の見通し	+0.7%	~	+1.0%	+1.0%~+1.3%	+0.8%~+1.1%
		<	+0.9%	>	<+1.1%>	<+0.9%>
2020年度		+0.8%	~	+1.1%	+1.2%~+1.5%	+1.1%~+1.4%
		<	+0.9%	>	<+1.4%>	<+1.3%>
	1月時点の見通し	+0.7%	~	+1.0%	+1.3%~+1.5%	+1.2%~+1.4%
		<	+1.0%	>	<+1.5%>	<+1.4%>
2021年度		+0.9%	~	+1.2%	+1.4%~+1.7%	
		'	+1.2%	>	<+1.6% >	

【出所】日本銀行、Bloomberg

◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。